
正しい答え

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正しい答え

【Zマーク】

292210

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

毎夜訪れる『奴』からの質問に、『俺』は正しい答を返し続ける。そうしなければ、生きていくから。

俺は手のひらに視線を落とし、ただ溜息を吐く。
そろそろ時間だ。

『奴』が来る前に、顔でも洗つてスッキリしておこうと、俺は座っていたソファから立ち上がり、洗面所へと向かう。
冷たい水で顔を洗い、濡れた顔をタオルで拭い切らぬ間に、俺は目の前の鏡に映つた自分の顔と目があつた。

「時間だ」

鏡の中の俺が、そつ唇を動かした。

「……解つた」

俺は、そう答えた。

顔を拭つて部屋に戻り、わっせのソファに深く腰を下ろす。

「お前の恋人の名前は？」

俺の口が勝手に言葉を紡ぎ出す。俺はそれに『さゆり』と答えた。

『『さゆり』は、あの日、お前に何をした？』

また、俺の口が勝手に動いて、俺に辛い過去を突きつけてくる。

『……俺の事を嫌いだといって、崖から突き落とした』

「それで、お前はどうした？」

「落ちた」

「最後にお前が見た『さゆり』はどんな顔をしてた？」

「笑つてた」

「……今日もまた命拾いしたな」

その言葉を最後に、俺の口は閉ざされる。

『さゆり……』。

最後に見た微笑みを思いだし、俺は泣きたくなつた。
もう、限界だった。

おさらば、明日はもう、奴の質問に正しく答えることは出来ない
だろう。

あの日、生きたいなんて思わなければ良かつたんだ。

「お前の恋人の名前は？」

「さゆり」

俺は、その名前を愛しげに囁く。

「『さゆり』は、あの日、お前に何をした？」

「……俺の事を愛してるって、そう言ってた」

だから、もう良いくらい手を放してと、彼女はそう言った。

「それで、お前はどうした？」

「手を、放した」

「最後にお前が見た『さゆり』はどんな顔をしてた？」

「……笑ってた」

一瞬の出来事の筈なのに、まるでスローモーションの様にゆっくり遠ざかっていく彼女の顔は、確かに微笑んでいた。

「お前の負けだ」

唇が勝手にそつ動いたと感じたのが、最後だった。

『 昨夜、午後11時半過ぎ、ひかりのマンション8階に住む会社員＊＊＊＊さんがマンション敷地内で倒れているのを、帰宅した同じマンションの住人が発見し 119番通報しました。＊＊さんは既に警察は飛び降り自殺を図ったものと なお、遺書などは発見されておらず ＊＊さんの同僚によりますと、＊＊さんは一ヶ月前に事故 おそらく衝動的に飛び降りて 以上、現場からお伝えしました』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9221o/>

正しい答え

2010年11月30日18時18分発行